

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

外部評価の結果

<p>業務所名 グループホーム 百</p> <p>日付 平成18年10月18日 特定非営利活動法人</p> <p>評価機関名 ライフサポート</p> <p>評価調査員 在宅介護経験15年 評価調査員 在宅介護経験12年</p> <p>自主評価結果を見る (まだリンク先はありません)</p> <p>評価項目の内容を見る</p> <p>事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)</p>	<p>簡評</p> <p>全体を通して(特に良いと思われる点など)</p> <p>「病院は疲れた。ここに帰れてやれやれ!!」と病院から退院して帰った利用者の一言が、このグループホームの安心できる心地良い場所を物語っている。自分の前に居る利用者「あんた、ここにお座り」と手を差し出して誘っている。利用者同士の仲間意識が自然に芽生えている様子は微笑ましい。窓際のソファに座って利用者同士や職員とよく話しをしている。</p> <p>開設以来3年目を迎えている。当初は元気だった利用者も80歳代の高齢者にとって3年という、精神能力と身体機能の衰えは相当なものになるだろう。このような利用者の機能の状態下で、日々の体調維持をどのようにしていくかが、このグループホームの今年度のケアの最重要課題と考えている。午前中は皆で輪投げをしたり、ゲームやラジオ体操を楽しみながら少しでも身体を使うことをしている。そして最小限、摂水量をしっかりと確保するようにしている。外出する機会も少ないので、リビングルームの南面にある芝生の庭にアウトドア用のテーブルや椅子を置き、皆でお茶をしたり、食事もできるよう整備した。秋には快適な空気に接しながら9人の利用者と職員、そして家族も揃って交わす笑顔が目に見え、利用者全員仲良く、食事したり、話しをして、一人ひとりがのんびりと穏やかに生活されることを祈っている。</p> <p>特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運営推進会議が始まっているが、この協議会を通して家族や地域とのつながりを密接にしていくきっかけにして欲しい。そこで話した事等を家族に知らせて、また家族の意見も代弁してグループホームのことを地域の人によく知ってもらうようにして欲しい。 2. ゆっくりと利用者に寄り添う時間をもっと増やすと、まだまだ利用者の新しい気付きや思いに接することが出来ると思う。
--	--

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	<p>グループホームとしてめざしているものは何か</p> <p>「お一人ひとりに尊厳を持って接する。ゆっくりとしたリズムで生活してもらおう。出来る事はしていただきます。いつも私たちがそばにいます。自然と人々のふれあいをしていただきます」の理念が玄関脇にさりげなく掲げられており、家族にもわかりやすく協力してもらい、また利用者には出来ることをしてもらい、生きがいを感じていただき、その人らしく生活ができるよう支援していこうとしている。</p>		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	<p>入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か</p> <p>一日の大半を過ごしているリビングルームは食卓やソファを置いても十分なゆとりがあり、利用者は午前中は皆でゲームや体操をして、午後は思い思いに過ごせるようにしている。希望にあわせて夜間の入浴も出来るよう配慮されていて利用者が入浴後ぐっすり眠れるようにしている。居室の扉の一部がそれぞれ違う色で彩色してあり、「私の部屋は白よ」「私の部屋は黄色」と特徴をよく掴んでおり、安心して過ごしている様子が伺える。</p> <p>高台に位置するのでリビングルームに続く南面の庭からの眺望が良い。四季の移り変わりがよくわかる自然に恵まれている。丘の上に立地して散歩には坂があるので、法人内の敷地内を自然に触れて歩く工夫も考えて欲しい。</p>		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	<p>一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か</p> <p>職員が厨房で調理中、カウンター越しに利用者が何やら話している。「…時に帰るからその時に一緒に…」どうやら利用者は帰りたい気持ちを伝えている様子。少し押し問答をして職員が調理をしながら歌いだした。それに連れて利用者も歌いだし笑顔になっていく。利用者の十八番の歌で上手に気分転換を図っていた。</p> <p>「どうしてか分らんが気持ちがいらいらしてくる」「このごろ、外に出たくてしょうがないよ」利用者の言葉が記録してあり、利用者の発する言葉から職員がどのように支援していけば良いか、日頃職員同士で話し合いながら取り組んでいる様子が伺えた。</p> <p>利用者の精神状態や身体機能の変化に伴い、利用者に対するケアが一番大切であり、逆に職員にかかる負担が一番大変な時でもある。人数的にも許容される限界もあり、簡単にには解決できないこの実体を外部からも認識しておかなければならない。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	<p>サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。</p> <p>地域の山の一角に町内の福祉施設が集合し、その一部にこの法人の障害者施設とグループホームがある。この立地から民家と離れているので、運営推進協議会を利用して認知症への理解、家族や介護者の気持ち等情報を地域に発信したり、また地域の情報も受け入れながら、その地域に必要なグループホームの存在価値を高めていくことが出来るかも知れない。この法人の中でも認知症に関するリーダー的な存在になって欲しい。</p> <p>外部研修にも積極的に参加をして、施設の意を受けて、管理者と職員が一体となってケアの質の向上とサービスの向上に努力してもらいたい。</p> <p>自主評価は自らを厳しく見ており、その態度には敬服するが、利用者の状態をよく見極め、当面、利用者に対して実現可能な目線で判断するようにしてもらいたい。</p>		